

# 2011年度2Q決算の概要

2011年10月31日  
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

なお、本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。

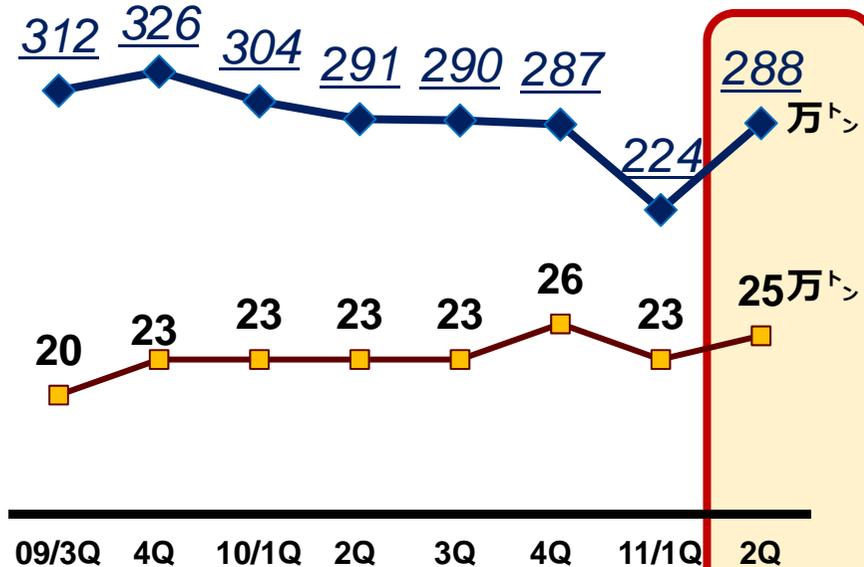
本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。

# 11年度2Q決算ハイライト

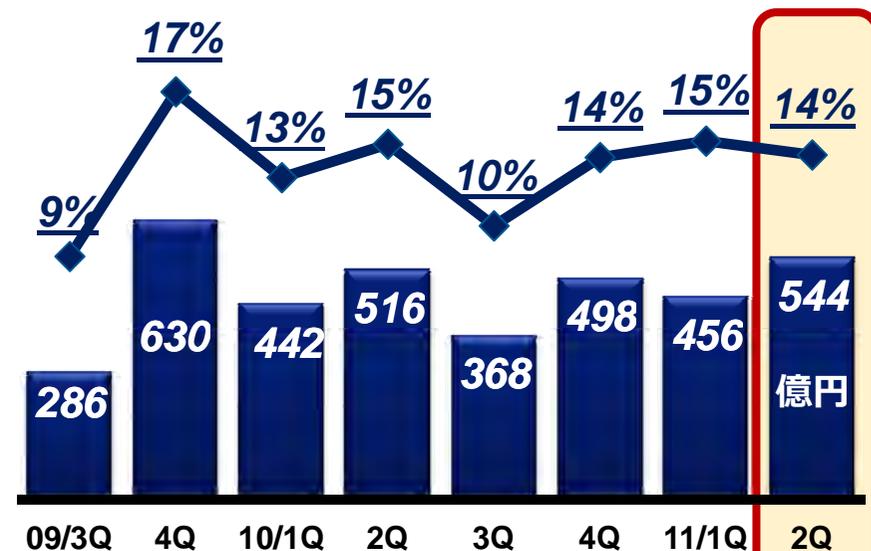
	2Q累計 (前年同期比)
● 売上高	6,922億円 (△ 15億円)
● 営業利益	412億円 ( 64億円)
● 経常利益	413億円 ( 124億円)
● 当期利益	△ 323億円 (△ 672億円)
● EBITDA	1,000億円 ( 42億円)

- シームレスパイプ販売は油井管を中心に好調
- 輸出薄板市況の低迷および9月台風影響等により、見込み対比約25万トンの減産
- 営業利益は、シームレスパイプ価格改善の進展等により、見込み対比約60億円の増益
- 株式市場の下落により、有価証券の評価損を△797億円計上

全社販売量と  
シームレスパイプ販売量の推移



四半期別EBITDAと  
EBITDAマージン推移



# 11年度通期業績見通し

- 下期販売量は、国内自動車向けを主体に高水準  
(輸出薄板主体に前回見通しからは32万ト<sub>n</sub>減)
- シームレスパイプ販売は好調持続
- タイ洪水影響等の不透明要因はあるが、価格改善やコスト改善強化等によりカバー、営業利益は前年度比336億円増の900億円の見込み
- 当期利益は、上期同様に有価証券評価損を織込み下方修正

億円	[ 7/28 見通し ]	11年度 見通し	10年度	前年度比
売上高	[15,300]	15,200	14,024	1,175
営業利益	[900]	900	563	336
経常利益	[1,000]	1,000	340	659
特別損失	[△140]	△940	△620	△319
当期利益	[500]	0	△71	71
EPS(¥)	[10.79]	0	△1.54	1.54
EBITDA	[2,150]	2,150	1,825	324
販売量(万ト <sub>n</sub> )	[1,195]	1,163	1,172	△9

# 11年度2Q決算実績

# 11年度2Q決算概要

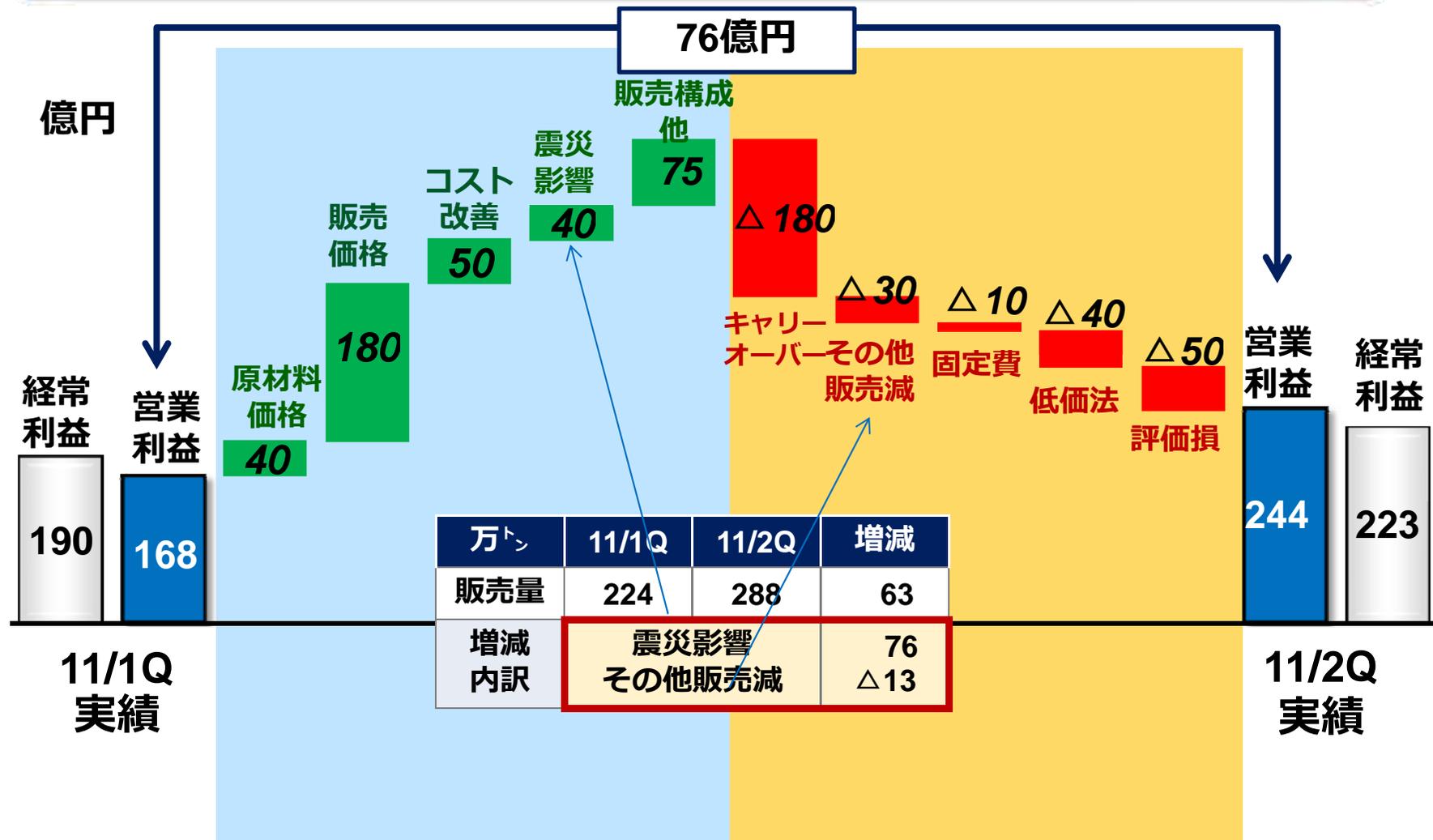
億円	10年度		11年度				増減	
	上期	下期	1Q	2Q	[7/28 見通し]	上期	前年同期 対比	前半期 対比
売上高	6,937	7,086	3,068	3,853	[7,000]	6,922	△15	△164
営業利益	347	215	168	244	[350]	412	64	197
経常利益	289	50	190	223	[400]	413	124	362
特別損益	-	△620	△143	△797	[△140]	△940	△940	△320
法人税等 少数株主損益	59	149	△14	218	[△110]	203	143	53
当期純利益	348	△420	32	△356	[150]	△323	△672	96
EPS(円)	7.53	△9.07	0.70	△7.69	[3.24]	△6.99	△14.52	2.08
EBITDA	958	866	456	544	[950]	1,000	42	133
為替レート(円/\$)	89	82	82	78	[81]	80	9円高	2円高

## 特別損失内訳

億円	10年度		11年度		11年度 上期
	4Q	10年度	1Q	2Q	
災害による損失	△620	△620	△123	-	△123
投資有価証券売却損	-	-	△19	-	△19
投資有価証券評価損	-	-	-	△797	△797
特別損失	-	△620	△143	△797	△940

# 営業利益増減 (11/1Q→11/2Q)

市況品減産影響をシームレスパイプを主体とした価格改善とコスト改善等によりカバーし76億円の増益

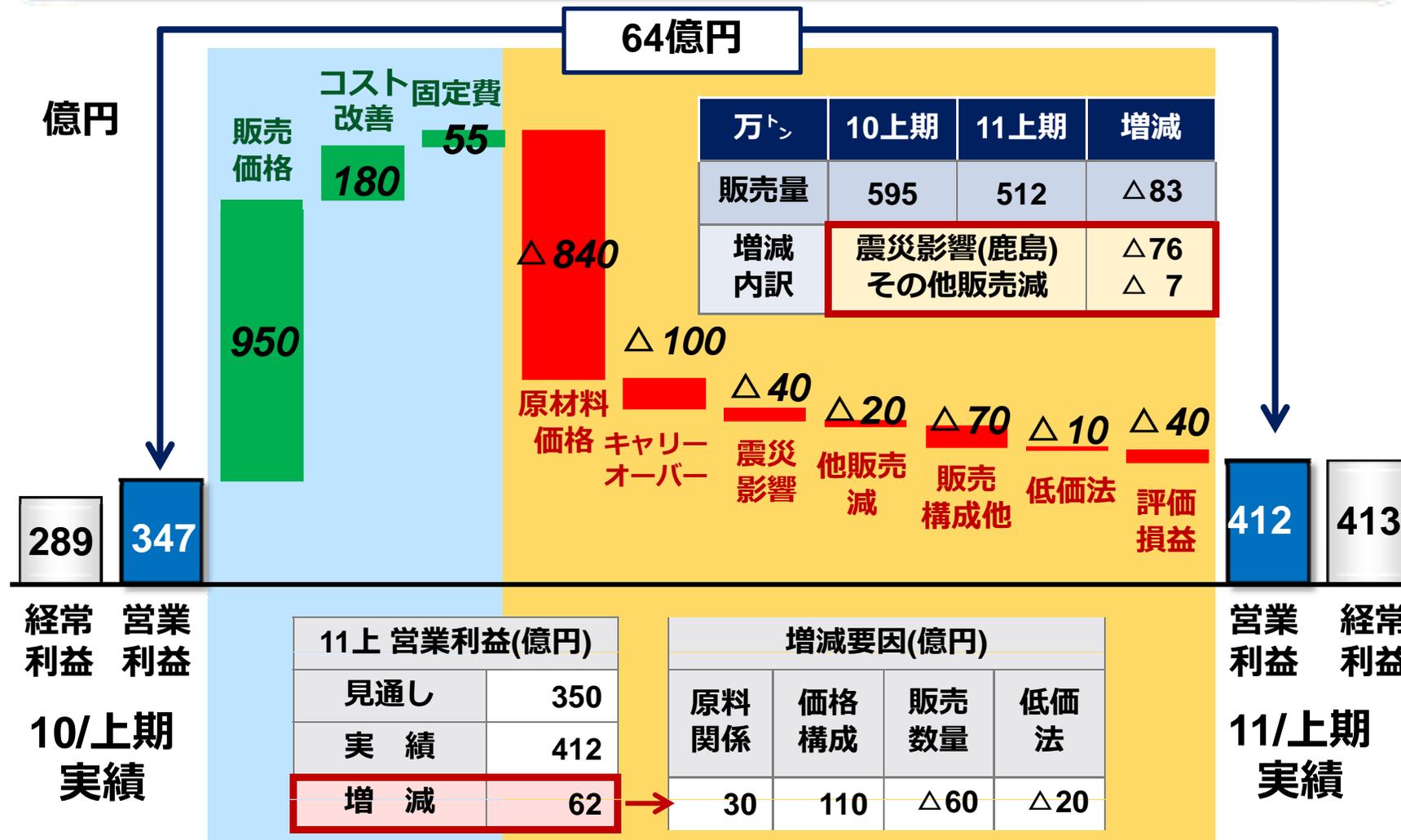


万ト	11/1Q	11/2Q	増減
販売量	224	288	63
増減内訳	震災影響		76
	その他販売減		△13

●持分法損益 <10/1Q> 47億円 → <11/2Q> 32億円

# 営業利益増減 (10/上期→11/上期)

原材料コスト上昇や、震災影響による販売数量減はあったが、価格改善とコスト改善等によりカバーし、営業利益は64億円の増



●持分法損益 <10/上期> 55億円 → <11/上期> 80億円

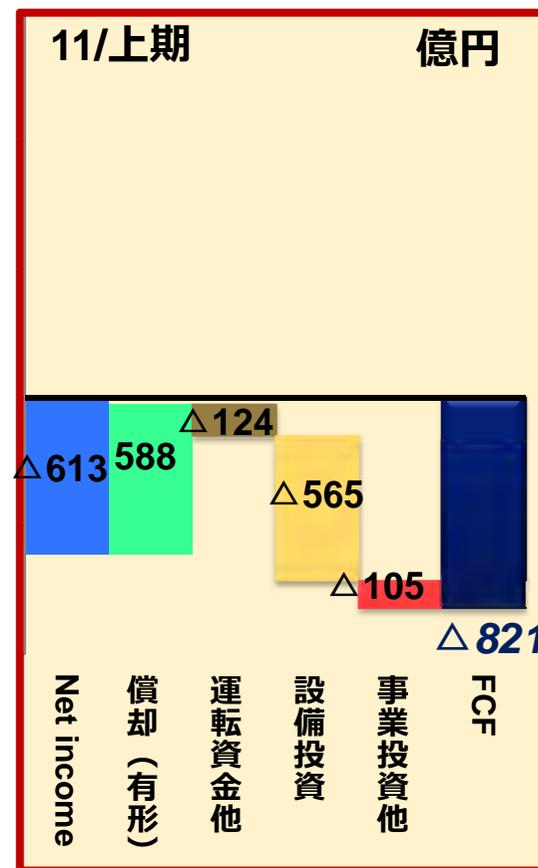
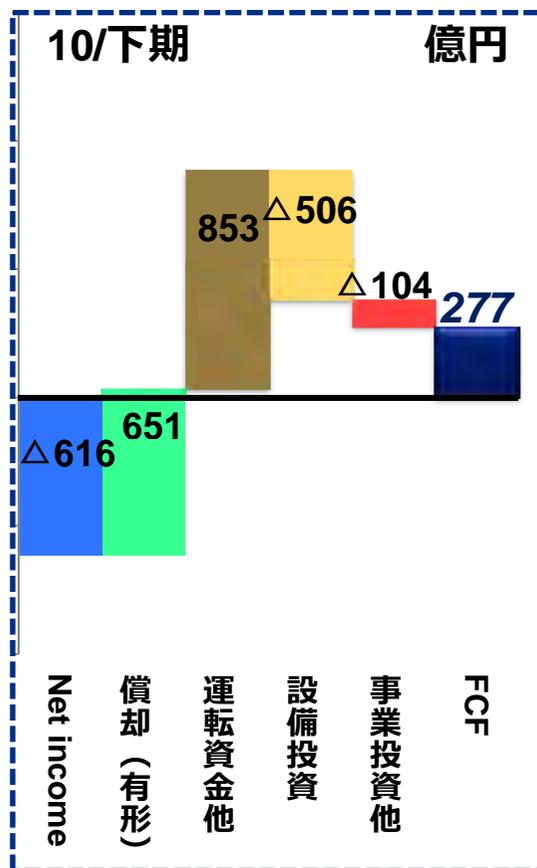
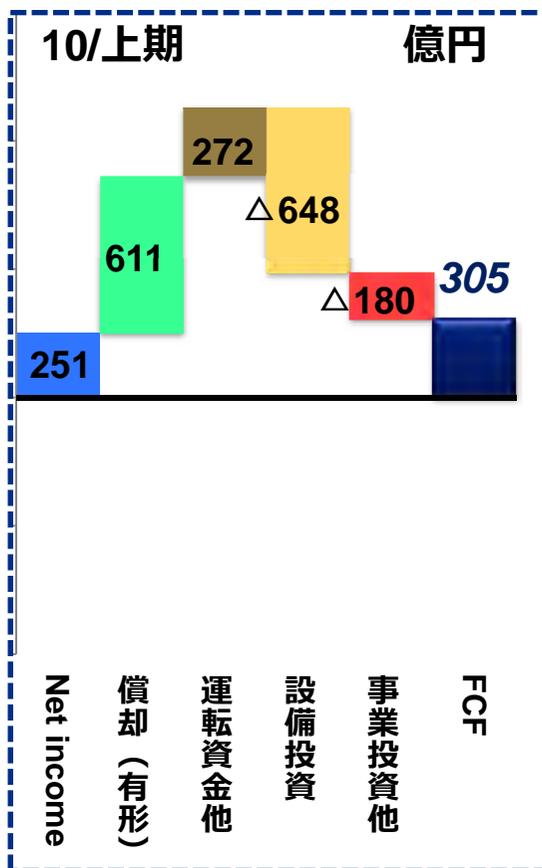
# 11/9E BS概況

9

億円	10		11			%	11/3E 増減
	9E	12E	3E	6E	9E		
<b>【資産】</b>							
流動資産	6,226	6,189	6,479	6,328	<b>6,935</b>	7.0	456
固定資産	17,752	17,936	17,928	17,915	<b>17,651</b>	△1.5	△277
資産合計	23,978	24,126	24,407	24,244	<b>24,586</b>	0.7	179
<b>【負債および純資産】</b>							
流動負債	6,615	6,995	8,006	7,931	<b>8,304</b>	3.7	298
固定負債	8,679	8,492	8,220	8,136	<b>8,261</b>	0.5	40
純資産	8,682	8,637	8,180	8,176	<b>8,021</b>	△1.9	△159
借入残高	11,170	11,111	11,733	11,974	<b>12,072</b>	2.9	338
D/Eレシオ	1.37	1.37	1.53	1.56	<b>1.61</b>		0.08

# キャッシュフローの状況

Net income: 税前当期利益+法人税等支払額



	10/9E	10/12E	11/3E	11/6E	11/9E
D/Eレシオ	1.37	1.37	1.53	1.56	1.61
借入金	11,170 億円	11,111 億円	11,733 億円	11,974 億円	12,072 億円
現預金	189 億円	197 億円	825 億円	334 億円	192 億円
ネット借入金	10,981 億円	10,913 億円	10,908 億円	11,640 億円	11,879 億円

# 11年度見通し

# 11年度 販売量等の見通し

※住金小倉、住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む  
 ※見通しは全て概数

- 2Qから下期にかけて鋼材販売は順調に回復
- シームレスパイプ年間販売量は101万トンの想定

			10年度			上期	下期 見通し	11年度 見通し	10年度 増減	
	上期	下期		1Q	2Q					
為替レート (円/\$)	89	82	86	82	78	80	80	80	6円高	
粗鋼生産量 (万トン)	678	612	1,290	277	334	611	690	1,300	10	
鋼材販売量 (万トン)	595	577	1,172	224	288	512	651	1,163	△ 9	
シームレスパイプ 販売量(万トン)	46	50	96	23	25	47	54	101	5	
鋼材 平均単価 (千円/トン)	国内	98.1	105.1	101.5	113.2	113.6	113.4	109	111	10
	輸出	84.3	88.4	86.3	96.6	99.5	98.1	96	97	11
	平均	91.6	96.9	94.2	104.5	107.3	106.0	103	105	10
ドル バランス (億ドル)	受取		52			29	36	65		
	支払		△52			△32	△39	△71		
	合計		0			△ 3	△ 3	△ 6	△ 6	

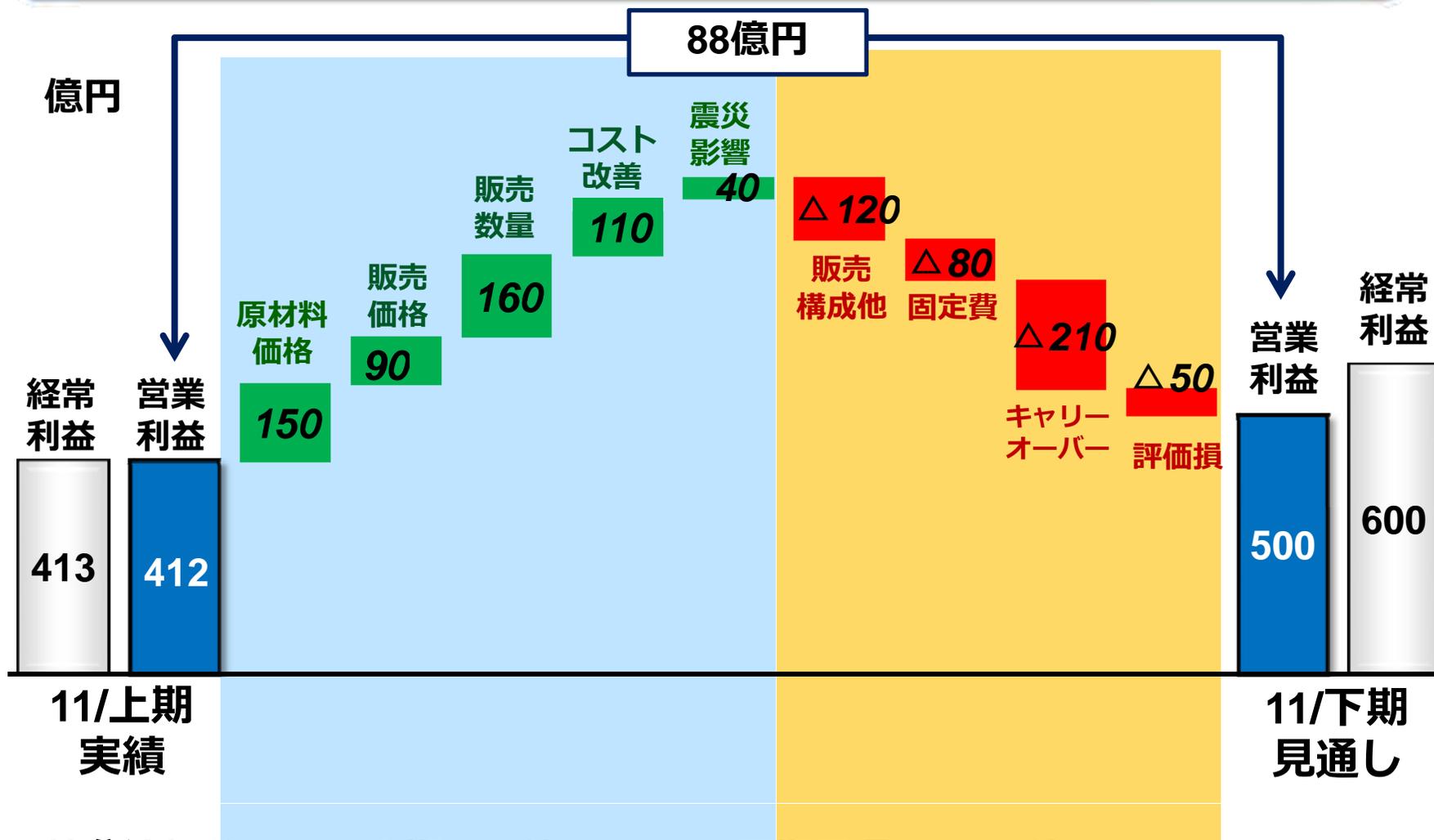
# 11年度 業績見通し概況

- 原材料価格上昇や震災影響による販売減等があったが、シームレスパイプの販売改善やコスト改善等によりカバーし、営業利益は336億円の増益を見込む

億円	10年度	※見通しは全て概数						11年度 見通し	年度 増減
				上期	下期 見通し	[ 7/28 見通し ]			
		1Q	2Q						
売上高	14,024	3,068	3,853	6,922	8,300	[15,300]	15,200	1,175	
営業利益	563	168	244	412	500	[900]	900	336	
経常利益	340	190	223	413	600	[1,000]	1,000	659	
特別損益	△620	△143	△797	△940	-	[△140]	△940	△319	
当期純利益	△71	32	△356	△323	320	[500]	0	71	
EPS(円)	△1.54	0.70	△7.69	△6.99	6.90	[10.79]	0.00	1.54	
EBITDA	1,825	456	544	1,000	1,150	[2,150]	2,150	324	
借入残高	11,733	11,974	12,072	12,072	12,100	[12,100]	12,100	366	
D/Eレシオ	1.53	1.56	1.61	1.61	1.61	[1.50]	1.61	△0.08	

# 営業利益増減 (11/上期→11/下期見通し)

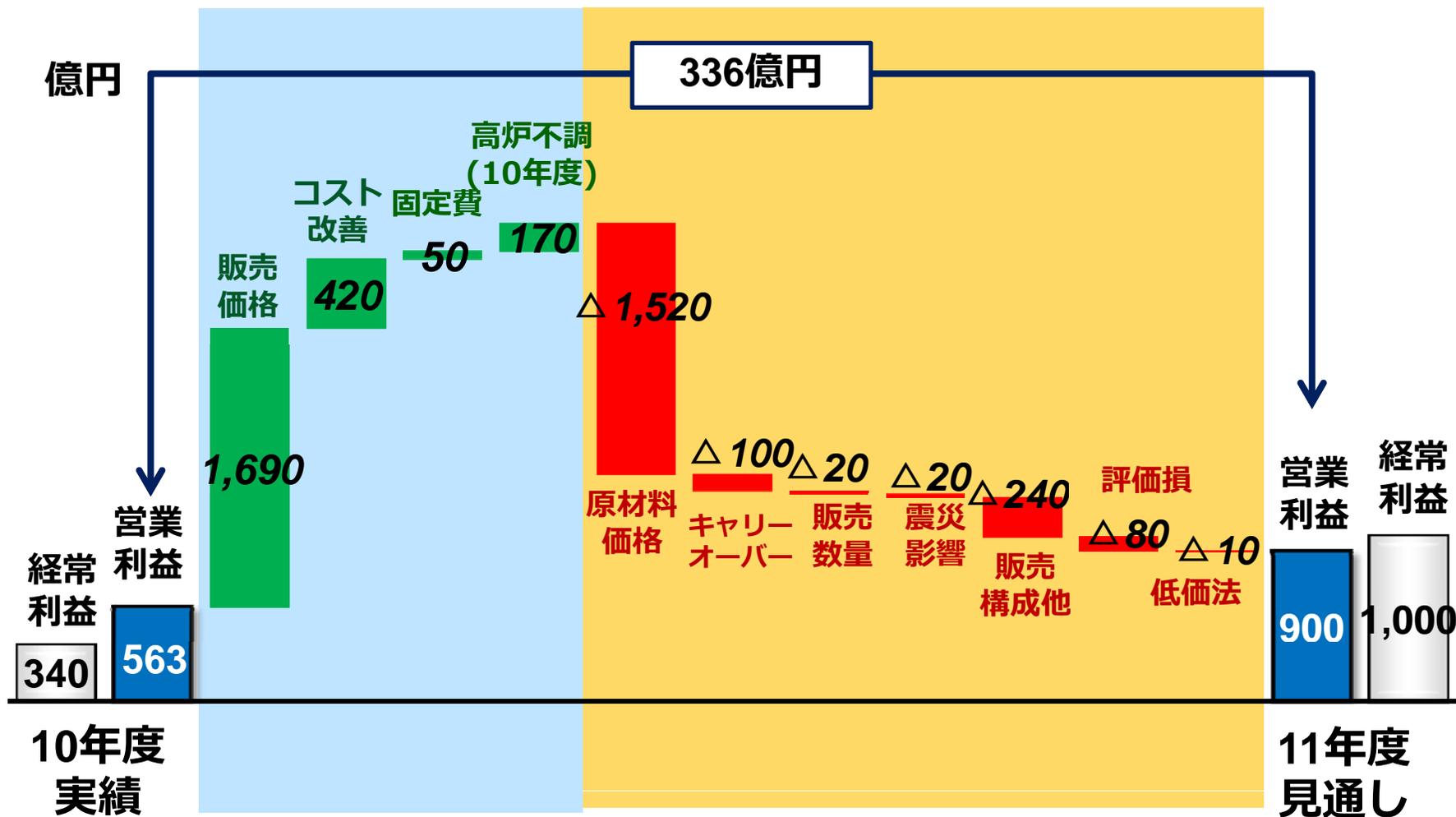
販売数量増、販売価格改善・コストの改善の進展により  
90億円程度の増益を見込む



●持分法損益 <11/上期> 80億円 → <11/下期見通し> 110億円

# 営業利益増減 (10年度→11年度見通し)

シームレスパイプの価格改善等により、原材料価格高騰等をカバー  
コスト改善強化もあり340億円程度の増益見込み



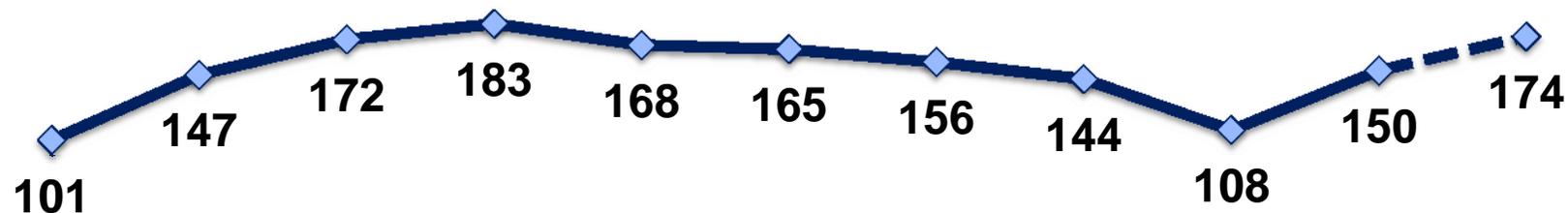
●持分法損益 <10年度> △34億円 → <11年度見通し> 190億円

# 鋼材品種別販売状況

## 鋼板・建材

薄板：タイ向け影響はあるが、自動車向け主体に高水準な販売  
 厚板：各分野とも需要は堅調  
 建材：復興需要の本格化は下期以降

販売量(万ト)

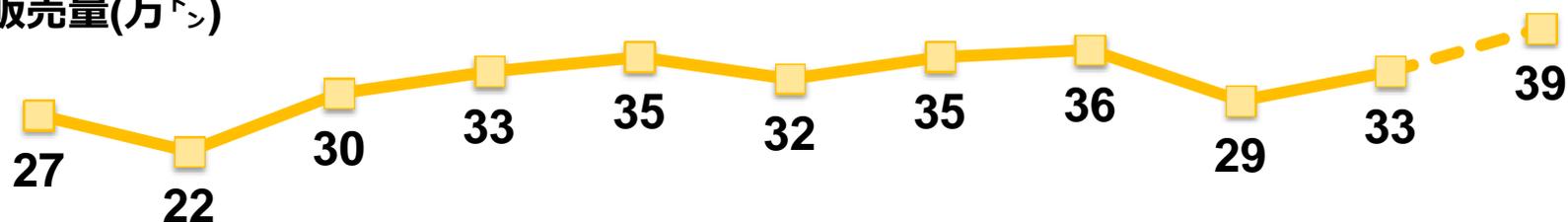


09/1Q 2Q 3Q 4Q 10/1Q 2Q 3Q 4Q 11/1Q 2Q 下期見通し  
 ÷2

## 鋼管

シームレス：エネルギー開発の好調さに支えられ、各分野とも好調  
 大径管：中東地域での大型案件受注により下期販売は回復

販売量(万ト)



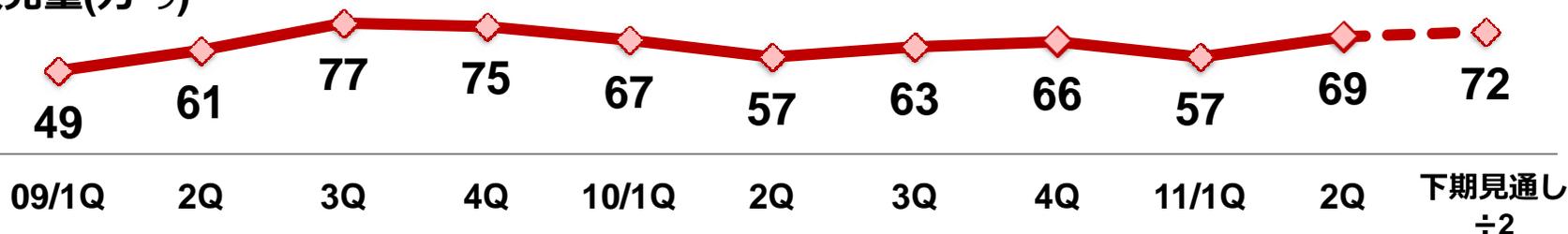
09/1Q 2Q 3Q 4Q 10/1Q 2Q 3Q 4Q 11/1Q 2Q 下期見通し  
 ÷2

# 鋼材品種別販売状況

## スラブ

2Q以降は契約通り (280万ト/年)の販売量に回復

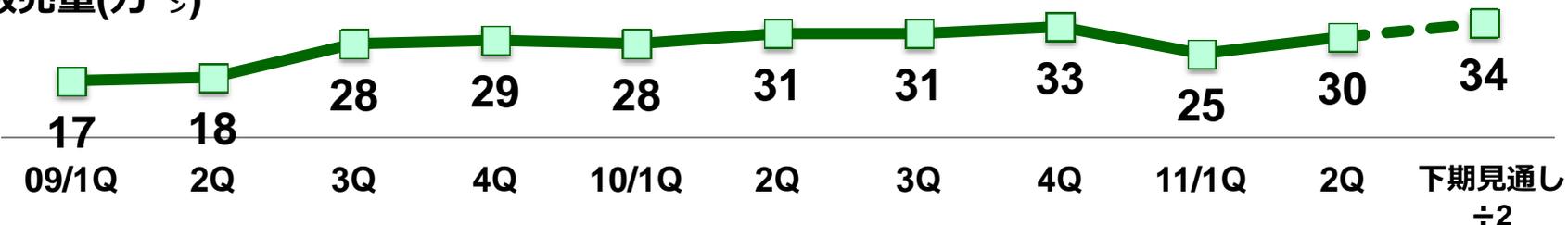
販売量(万ト)



## 特殊鋼

タイ向け影響はあるが、国内自動車向け主体に堅調な販売

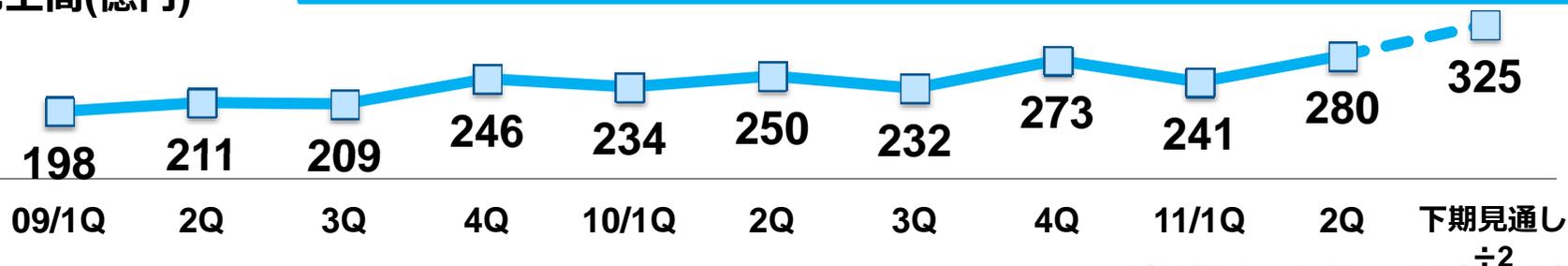
販売量(万ト)



## 交通産機品

鉄道車両品：内需に加え、米国・欧州・中国向けも堅調に推移  
3Qより米スタンダードスチール社を連結  
クランクシャフト：自動車生産の回復によりほぼフル生産の見通し

カンパニー  
売上高(億円)



# シームレスパイプ<sup>o</sup>需要・販売の状況

## ● OCTG / Line Pipe

- ➔ OCTG長期契約品：上期同様、下期についても、中東向け主体に堅調
- ➔ OCTG SPOT品: リグカウントは高位安定、ハイエンド分野を含め、需要は旺盛。
- ➔ Line Pipe:プロジェクト向け・店売り向けとも需要は増加傾向

## ● 特殊管

- ➔ 火力発電向けは堅調、原発向けはキャンセルは無いが、延期される案件あり

## ● 自動車・建機向け

- ➔ 自動車向け主体に下期にかけて大幅回復

リグカウントの状況	05年平均	06年平均	07年平均	08年平均	09年平均	10年平均	直近
米国	1,383	1,649	1,768	1,879	1,089	1,546	(11/10/28) 2,021
深井戸 (≥15,000ft)	199	225	222	283	249	249	(11/9) 398
北米・露・中 を除く世界	908	925	1,005	1,079	997	1,094	(11/9) 1,174

出所: Baker Hughes, Smith international

# VSB立上状況

- 9月 1日 開所式開催
- 11月初旬 高炉火入れ（木炭操業）
- API規格取得完了



ブラジル ルセフ大統領と当社友野社長



2011年度			2012年度			
2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
● 製鋼稼働	● 高炉火入	サンプル出荷→認定取得 徐々に出荷量拡大				

# セグメント・カンパニー別売上高等の状況

20

セグメント・カンパニー別売上高

※見通しは全て概数

億円	上期	下期	10年度	10年度		上期	下期 見通し	11年度 見通し	増減 YoY
				1Q	2Q				
				鋼板・建材	2,793				
鋼管	2,435	2,632	5,067	1,223	1,415	2,638	2,950	5,600	533
交通産機品	485	505	991	241	280	522	650	1,150	159
住友金属小倉	671	775	1,447	323	410	734	850	1,600	153
住友金属直江津 他	260	253	514	140	138	278	300	600	86
鉄鋼セグメント計	6,645	6,870	13,516	2,972	3,738	6,711	8,100	14,800	1,284
その他	292	216	508	96	114	211	200	400	△ 108
売上高計	6,937	7,086	14,024	3,068	3,853	6,922	8,300	15,200	1,176

(参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

鋼板・建材	170	△10	160	20	90	110	250	360	200	
鋼管	鋼管	40	120	160	70	85	155	115	270	110
	スラブ	△10	△40	△50	20	△25	△5	△65	△70	△20
住友金属小倉	20	40	60	0	20	20	80	100	40	

鉄鋼セグメント計	310	191	502	164	227	391	490	870	368
その他	38	24	62	4	16	21	10	30	△32
営業利益計	347	215	563	168	244	412	500	900	336

## 利益配分に関する基本方針

- 「質」と「規模」のバランスの取れた持続的成長を通じて企業価値を最大化
- 事業が生み出すキャッシュは、企業価値を高める投資に充当
- 投資戦略は以下を基準に実施し、その成果を株主の皆様に還元
  - ➡ 差別化の加速に資する投資であること
  - ➡ 資本コストを上回る便益をあげて企業価値向上に貢献すること
- 配当は安定配当を基本とする

## 財務体質運営指針

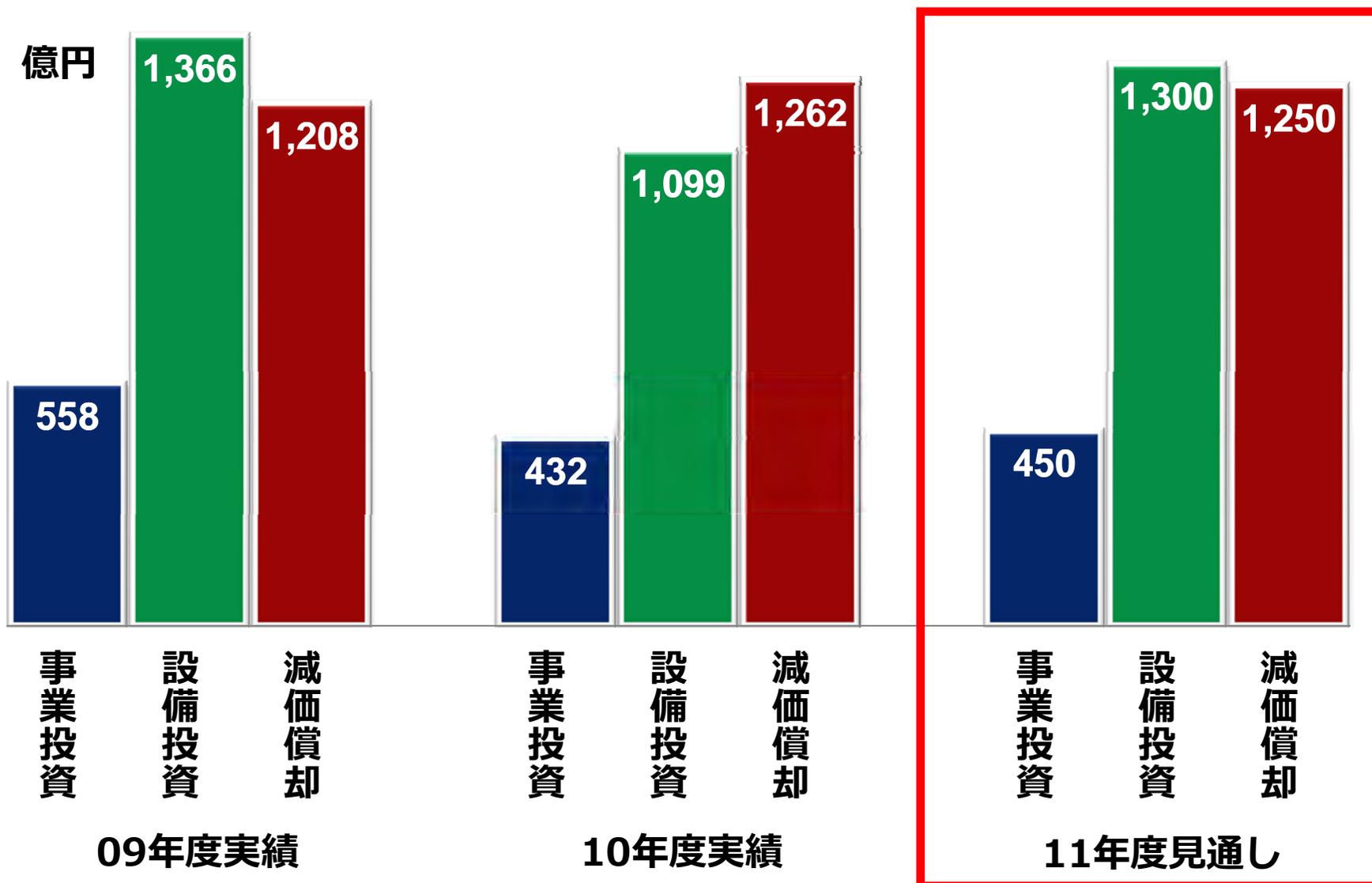
- D/Eレシオで 1.0未満を目標として運営

## 当期（12/3月期）配当予想

- 3.5円/株（中間配当 1.0円/株, 期末配当 2.5円/株）

# 事業投資・設備投資・減価償却費の見通し

設備投資額は工事ベース  
事業投資額は支払いベース



# 主要設備投資・事業投資の進捗

稼動予定年月で記載		投資額	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15
<b>設備投資</b>								
鋼管	和歌山上工程更新 新第2高炉+CC増強等	1,150 億円						
	超高強度ラインパイプ増産	100 億円		11/1				
	原子力発電用SG管増産	140 億円				13/4		
その他	住金小倉製鋼プロセス革新	270 億円		10/10				
	総合技術研究所リニューアル機能強化	100 億円				12/5		
<b>事業投資</b> (*JVの場合の投資額はJV合計額 []は当社出資額)								
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	*1,150 億円					13年	
	インドブーシャン社 オリッサ PJ " 西ベンガル PJ	技術援助 FS中						
	タイ カナドイル厚板ミル	[42億円]					13年	
鋼管	ブラジル高炉一貫 シームレス製鉄所(VSB)	4.7billion BRL (VSB 資本金)		11/11 高炉火入				
交通産機	インドクランクシャフト合併 (SMAC)	*10 億円		● 10/4				
	米国スタンダードスチール買収	325million\$					● 11/6	

# 参考資料

# 新日鉄との統合基本契約締結 (9月22日)

統合新会社は、世界一の技術とものづくりの力で、鉄鋼という産業基礎素材の可能性を極限まで追求し、日本および世界経済の発展と豊かな社会の創造に寄与します。

## 総合力世界No.1の鉄鋼メーカーへ

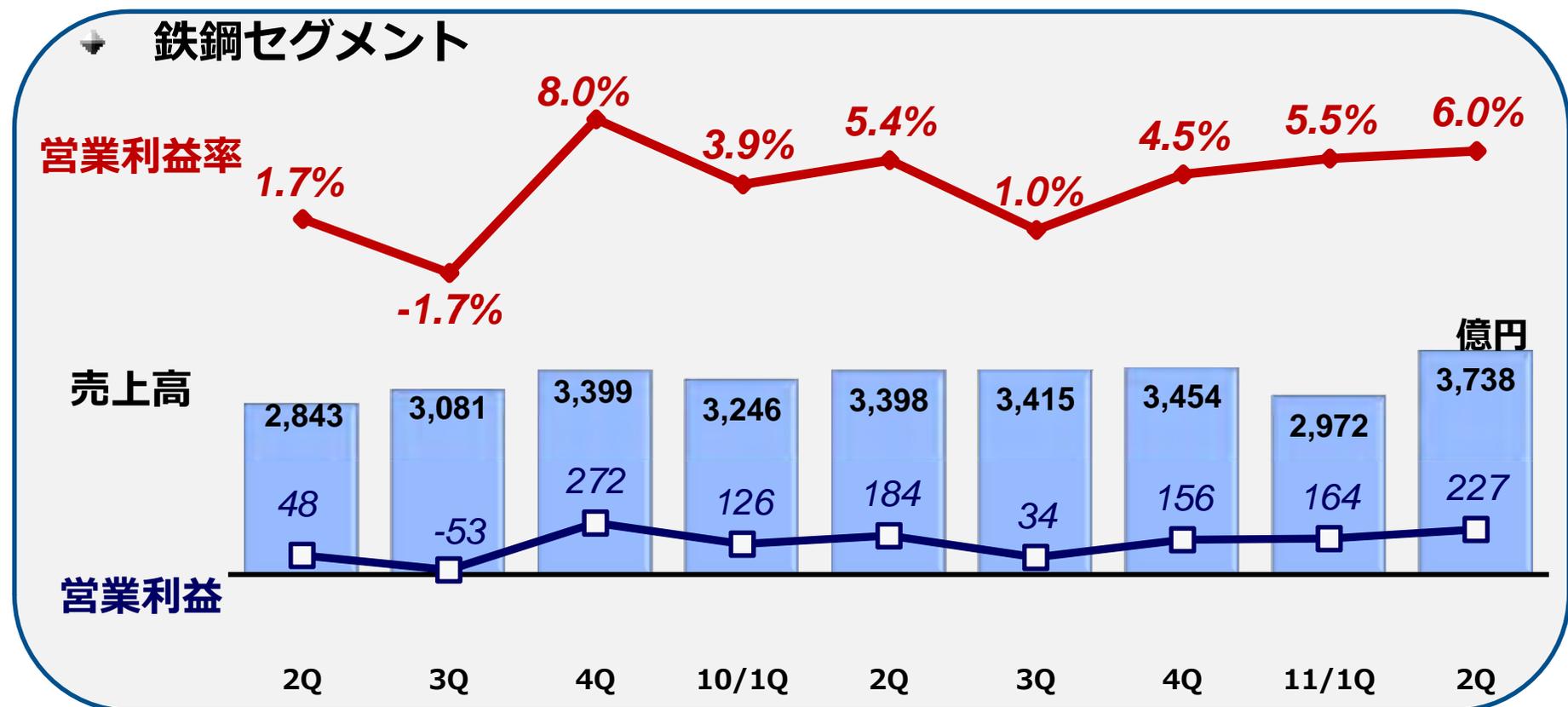
- グローバル生産規模6,000~7,000万トンを目指す。
- 経営統合後3年程度で年率1,500億円規模のコストを削減



商号	新日鉄住金株式会社 英文名称：Nippon Steel & Sumitomo Metal Corporation
本店所在地	東京都千代田区
合併期日 (統合期日)	2012年10月1日(予定)
統合の形態	新日鉄を存続会社とする合併(事業持株会社)
合併比率	新日鉄：1.0，住友金属：0.735 ※住金の株式1株に対し、新日鉄の株式0.735株を割当て

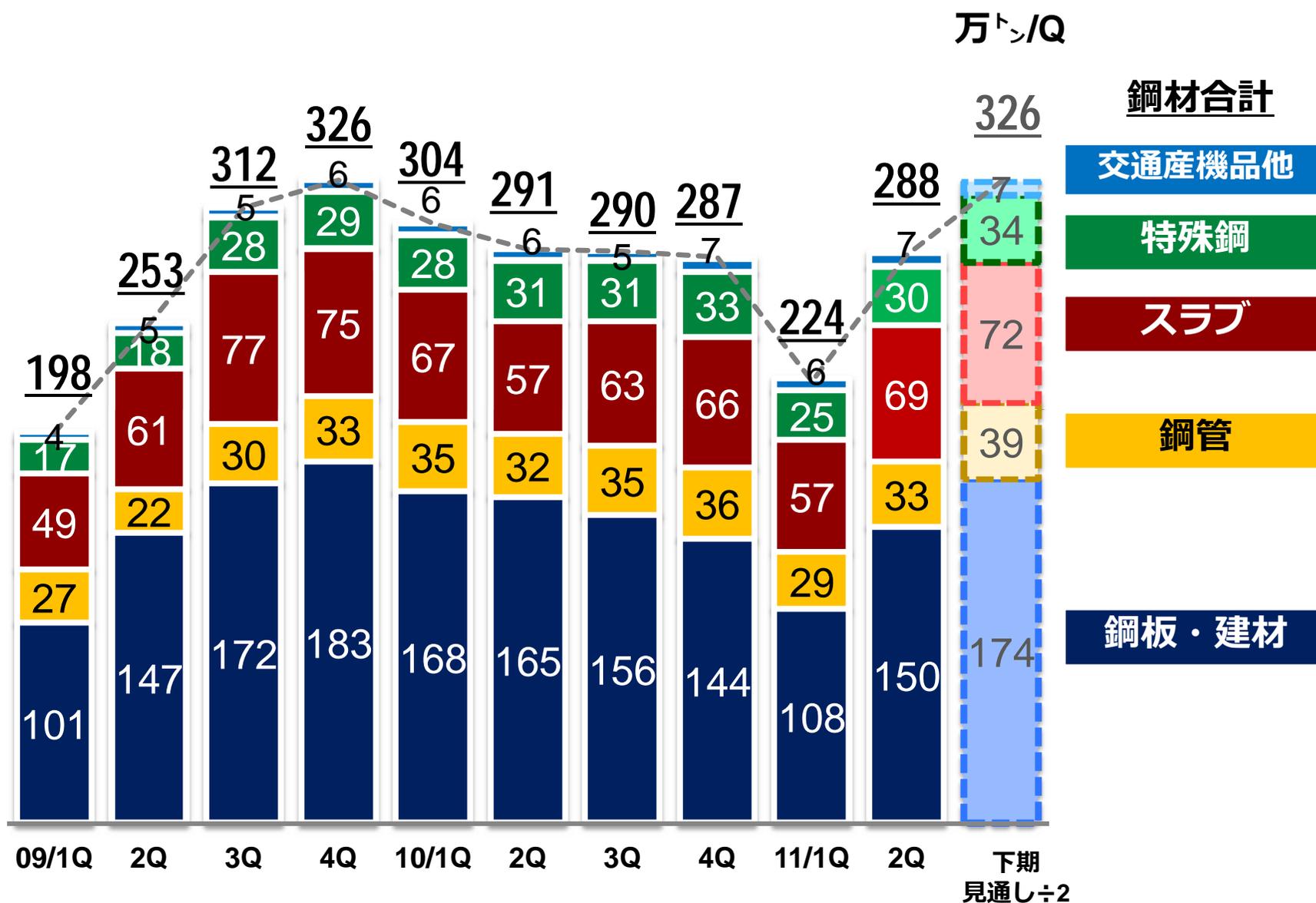
# セグメント別売上高・営業利益 四半期別推移

億円	09/2Q	3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q	4Q	11/1Q	2Q
鉄鋼	2,843	3,081	3,399	3,246	3,398	3,415	3,454	2,972	3,738
その他	238	178	211	169	122	104	112	96	114
売上高	3,082	3,260	3,610	3,416	3,521	3,519	3,566	3,068	3,853
鉄鋼	48	-53	272	126	184	34	156	164	227
その他	14	22	29	16	20	15	8	4	16
営業利益	63	-31	302	142	204	49	165	168	244



# 鋼材品種別販売量推移

※見通しは全て概数

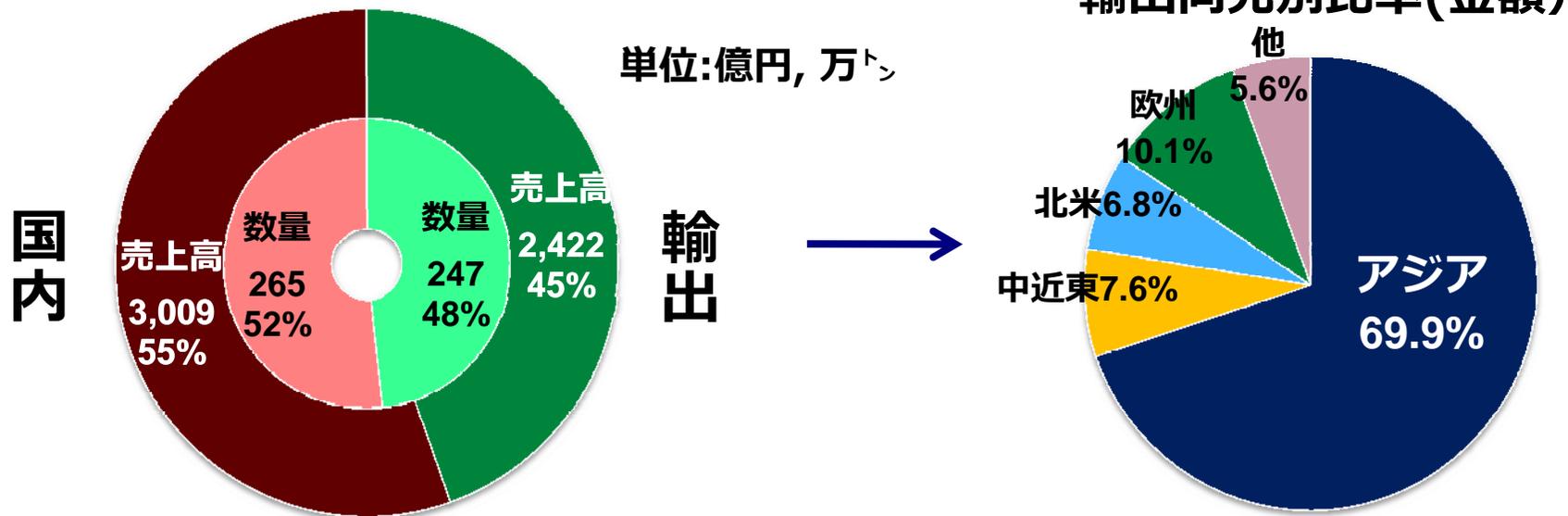


# キャリーオーバー等の影響額

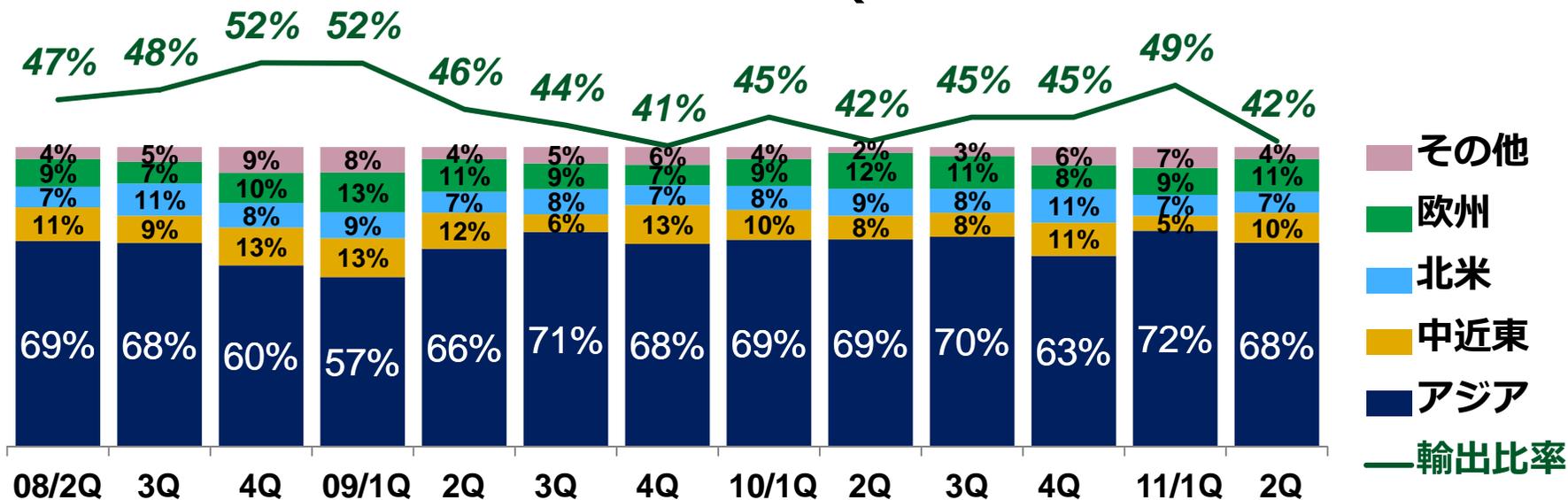
億円			10年度					11年度 見通し	増減 YoY
	上期	下期		1Q	2Q	上期	下期 見通し		
<b>キャリー オーバー</b>	<b>280</b>	<b>△30</b>	<b>250</b>	<b>180</b>	<b>0</b>	<b>180</b>	<b>△30</b>	<b>150</b>	<b>△100</b>
評価損益	200	40		240	20	260	20	280	
原価差額 調整計算	△70	40		△170	0	△170	20	△150	
<b>評価損益計</b>	<b>130</b>	<b>80</b>	<b>210</b>	<b>70</b>	<b>20</b>	<b>90</b>	<b>40</b>	<b>130</b>	<b>△80</b>
期首戻し	50	40		30	0		20		
期末適用	△40	△30		△10	△20		△20		
<b>棚卸簿価 (低価法)</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>20</b>	<b>△20</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>△10</b>

\*全て10億円単位概数

# 11/上期 鋼材 国内・輸出別売上高



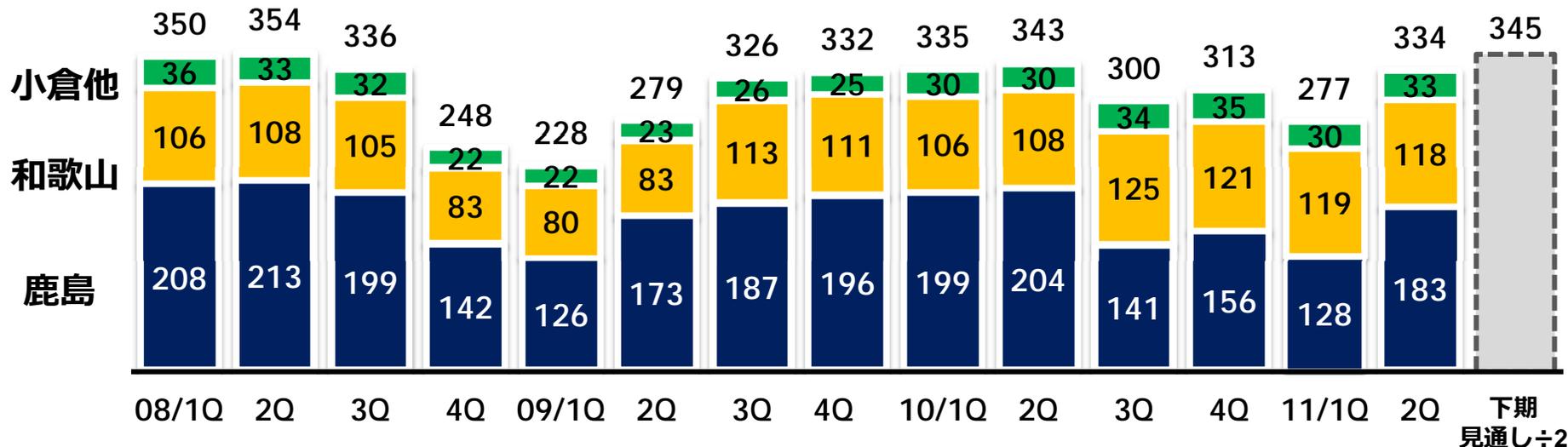
## 鋼材輸出向先別比率(金額) の推移



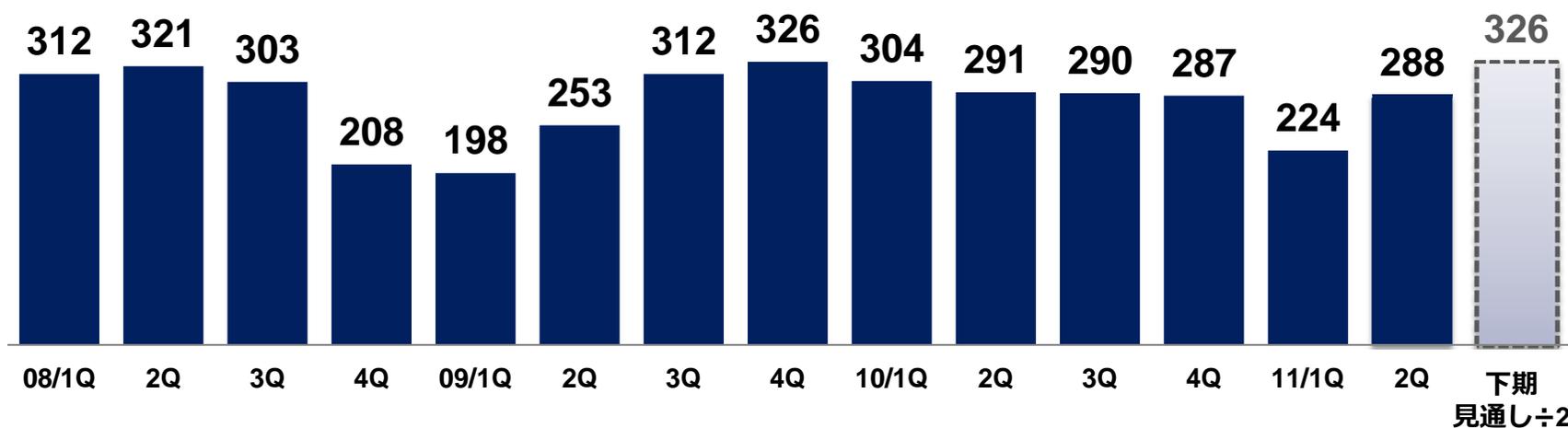
# 参考数値 (1)

30

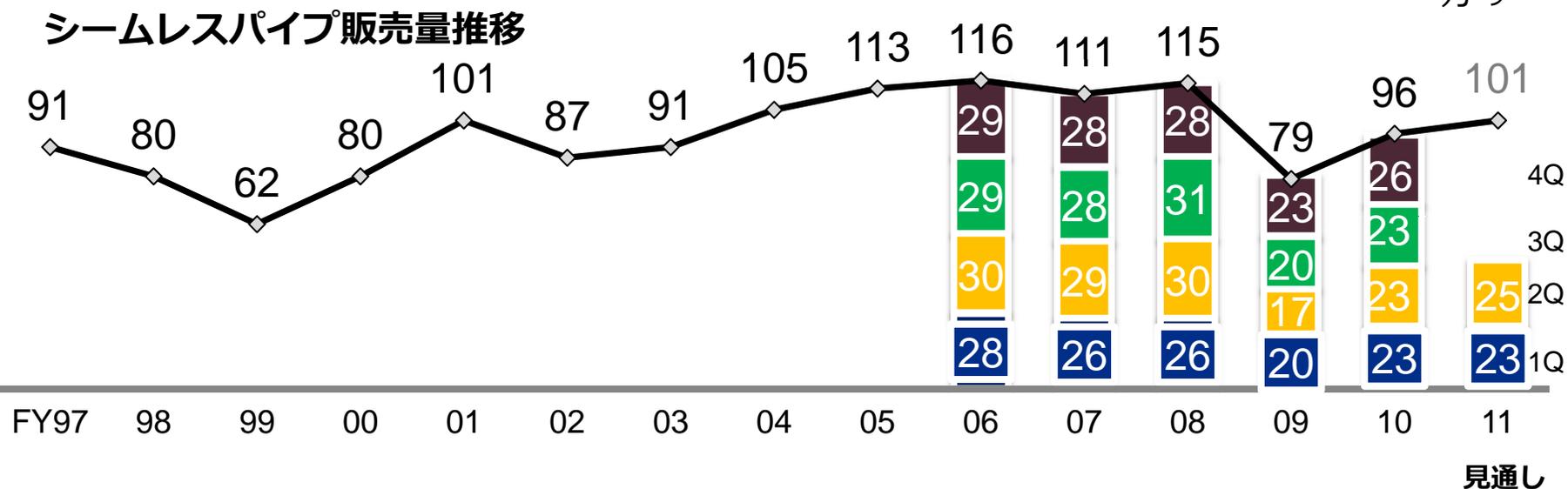
当社粗鋼生産量 万ト/Q



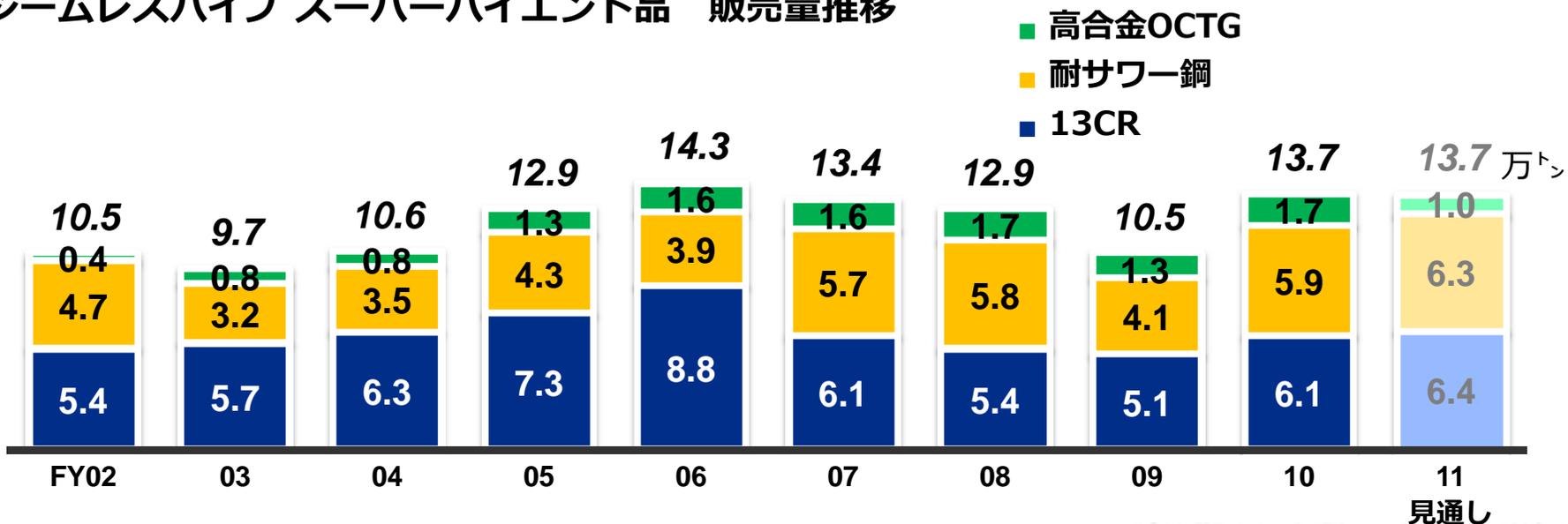
当社鋼材販売量 万ト/Q



# 参考数値 (2)

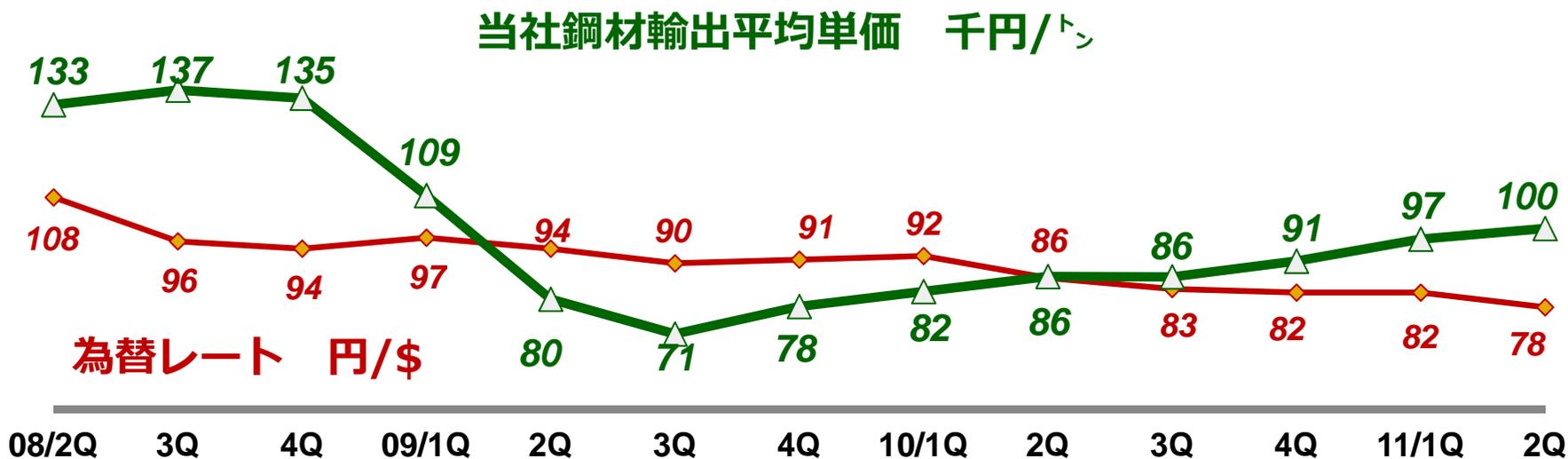
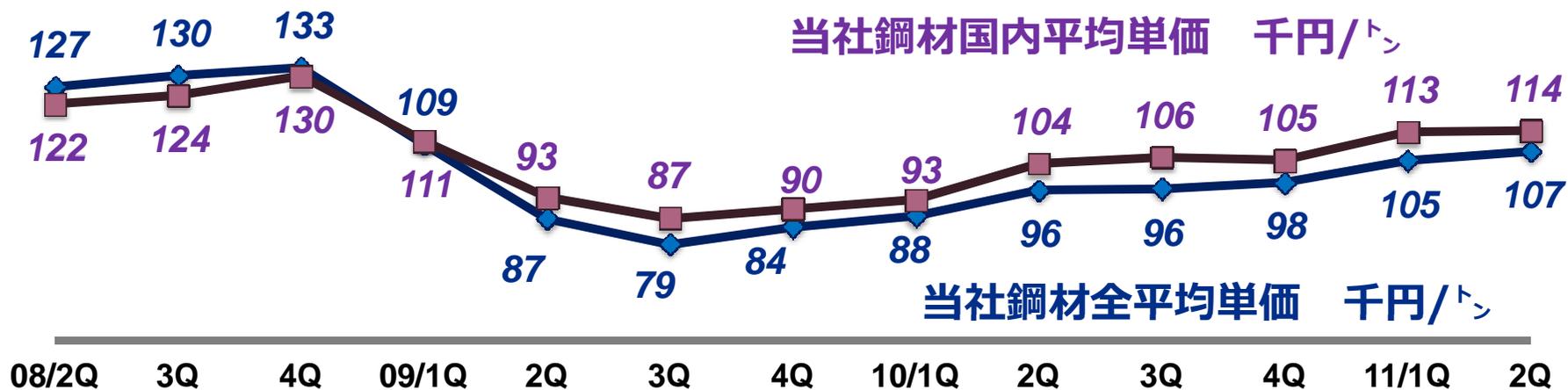


## シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移



# 参考数値 (3)

※見通しは全て概数



# 参考数値 (4)

## 当社設備投資、減価償却費の推移

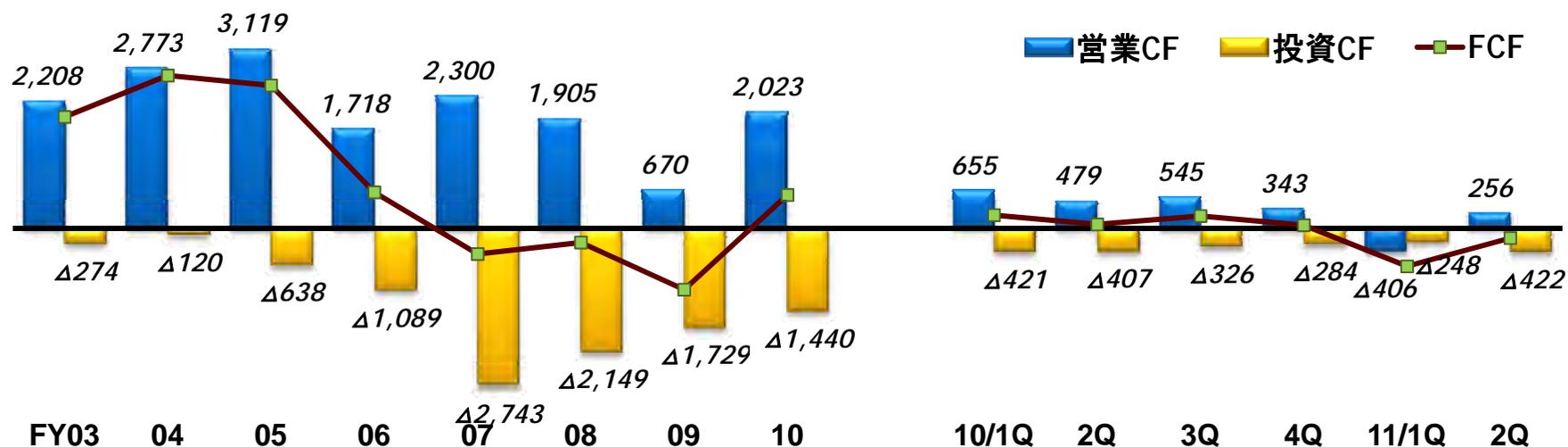
※見通しは全て概数

※設備投資は工事ベース \*有形固定資産のみ



## フリーキャッシュフローの推移

1,934 2,653 2,480 628 Δ442 Δ243 Δ1,059 583 233 72 218 58 Δ655 Δ165 億円



「質重視」による企業価値の  
持続的向上を目指す



ステークホルダーの皆様から  
信頼される会社へ